

水道事業の取り組み

— 安心できる安定供給の実現 —

バックアップ機能の確保

加賀市では、山中浄水場（自己水）と白山市にある鶴来浄水場（県水）の2つの施設でつくられた水を利用しています。

市内には大聖寺、片山津、山代及び山中の4つの配水池があり、このうち山中配水池は県水を受水できないため、災害時の断水リスク低減を目的に、県水によるバックアップ送水施設の整備を進めています。

耐震化の推進

令和6年能登半島地震では、ライフラインが大きな被害を受け、その重要性が改めて認識されました。

この地震の教訓を踏まえ、水道施設の安全性を高めるとともに、病院や避難所など防災拠点への給水を確保するため、水道管や配水池の耐震化を計画的に進めており、現在は、山中配水池の耐震化に取り組んでいます。

配水池別の給水体制

	山中浄水場 （自己水）	鶴来浄水場 （県水）
大聖寺配水池	給水可	給水可
片山津配水池	給水可	給水可
山代配水池	給水可	給水可
山中配水池	給水可	整備中



下水道事業の取り組み

— 持続可能な汚水処理の実現 —

統合事業

老朽化した加賀市浄化センターを廃止し、大聖寺川浄化センターに汚水処理を集約する計画を進めており、篠原中継ポンプ場建設工事や大聖寺川浄化センターの設備増強工事を行っています。

耐震化・老朽化対策

災害時も通水機能が確保できるよう下水道管の耐震化や老朽化した設備の更新を行い、将来にわたり安心して下水道が利用できるように取り組んでいます。

〈マンホール蓋〉



更新前

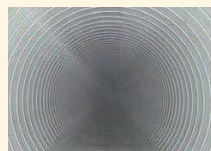


更新後

〈下水道管〉



更新前



更新後



未来へつなぐ加賀市の上下水道

vol.1
— 暮らしを守る施設整備 —

